

1. 実況上の着目点

① 500hPa5280～5400m のトラフに対応する低気圧がオホーツク海にあって、東進。シアーラインが北～東日本にのびる。シアーライン周辺では1時間に10mm前後の降水を解析。シアーラインが通過した北海道地方には、850hPa-6℃以下の下層寒気が流入し、降雪となっている所がある。また、中国東北区の高気圧とシアーラインや低気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、北日本では風が強くなり、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

- ② シアーラインが日本の東から伊豆諸島付近にのびている。日本の東では雷を検知し強い雨を解析。
③ 南西諸島では、高気圧縁辺の下層暖湿気が流入し、海上では局地的に激しい雨を解析。
④ 台風第25号がフィリピンの東を西北西進。

3. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、発達しながら13日夜には千島の東へ進む。低気圧と1項①の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、風が強くなり、波が高くなり、しけとなる所がある。北日本では13日は、強風や高波に注意。
② 1項②のシアーラインは、1項①の高気圧の日本海への移動とともに、日本の東を東進する。シアーラインと1項①の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、風が強くなり、波が高くなる所がある。東日本太平洋側では13日は、強風や高波に注意。
③ 1項③の南西諸島への下層暖湿気の流入は13日夜まで続き、大気の状態が不安定となる。南西諸島では13日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。
④ 1項④の台風はフィリピンの東を北西進し、15日にはバシー海峡へ進む。南西諸島には、台風周辺の下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となる。また、台風を波源とするうねりが到達し、波が高くなる所がある。南西諸島では14～15日は、うねりを伴った高波、落雷や突風、急な強い雨に注意。
⑤ 1項①の高気圧は、14日は日本の東、15日は日本のるか東に移動。東日本太平洋側では高気圧の縁辺を回る吹送距離・吹続時間の長い東よりの風の影響で、波が高くなる所がある。東日本太平洋側では14～15日は、うねりを伴った高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本。量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 波浪(明日まで)：北海道4、伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。